



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 “On the Move!!” 「さあ 動こう!!」
- アジア会長主題 “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
- 東日本区理事主題 「みんなで力を合わせて、1・2・3」
- あずさ部部長主題 「入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために!」
- 東京西クラブ会長主題 「いつも自然体で! 楽しい例会参加を」

2019年10月号

NO 517

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず。高ぶらない。

コリントの信徒の手紙1 13章4節

今月の強調 EMC/E

大野 貞次

これはクラブ拡張を意味します。新クラブの創設、この課題は非常に難題ですね。

私たちのクラブは高齢化の波に押され、力がそがれてきています。こんな言葉があります「限界集落」。この言葉が当てはまってしまいそうな現状、「いやいや、まだまだ頑張れますよ」との声。

それでは私たちの現在の行動範囲を広げてみませんか?

1歩でも半歩でも行動範囲を広げることによって、意志を共にする仲間を見つけることが出来るかもしれませんね。仲間が1人でも増えることにより、それがクラブの力となりクラブ拡張に結びついていけばと思います。

頑張らねば、しかし現状では新しく人と人とのつながりを作るのはなんと難しいことでしょう。

高齢になればなるほど意志疎通ができる人が少なくなっています。

1人で頑張るのではなくクラブの仲間と、また他クラブのメンバーと組み、新しい仲間を見つける努力が求められているように感じます。

1つの例として現在あずさ部のエクステンション委員会で進められているクラブ新設の動きです。エクステンション委員長の菰刈光彦氏(東京サンライズクラブ)が努力されているのを応援(興味がある方を紹介)することも1つですね。

ほかに何か…と思いを巡らせていますが、アツと言う間に半年が過ぎようとしています。急がねばと思いつつ妙案が見つかりません。

ガンバ・ガンバ・動きましょう。少しでも前に進めるようにまずはクラブメンバーを増やすことが先決ですね。見つめましょう。



摘果を待つ国立澤登キウイ園

矢川湿原・キウイフルーツ狩り

WHO ウォーキングご案内

住宅街にある農園でのキウイフルーツ狩りと、谷保天神、矢川湿原を歩きましょう。

期 日:2019年10月26日(土)

コース:JR 中央線国立駅<バス>谷保駅-谷保天神-矢川沿い道-矢川湿原-国立住宅街-沢登りキウイフルーツ農園-国立駅

集 合:JR 中央線国立駅

改札前 9:45

会 費:300円 弁当、飲料水

キウイは1kg 600円

クラブ役員

- 会 長 篠原 文恵
- 副 会 長 大野 貞次
- 書 記 神谷 幸男
- 会 計 高嶋美知子
- 担当主事 木川 拓

9月の記録		ニコニコ	7,850円
在籍者数 14人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	0円
出席者数 11人	コメント 0人	ファンド残高	158,447円
メーキャップ 0人	ビジター 4人	ホテ校ファンド	5,500円
出席率 85%	ゲスト 1人	奨学金残高	23,529円
前月修正 -	出席者合計 17人	WHO参加者	37人

10月例会案内

今月の強調テーマ： EMC/E

今月の例会は東京 YMCA にほんご学院の柳原みずきさん(業務主任)と、学生2人 Kieu Thilan Oanh (キユウ テイ ラン オアン) さん=ベトナム出身女性、Nguyen Dinnh Le Huy Guenn(グエンディン レ フィ)さん=ベトナム出身男性の若い3人の方をお迎えして、にほんご学院の現状と今後や、学生さんの体験談等のお話を伺いながらの楽しい例会になると思います。

ぜひご参加ください

日時：10月17日(木) 18:45~21:00

会場：ウェルファーム杉並(4階集会室)

(杉並区天沼3-19-16 TEL03-5335-7330)

会費：1,500円(ゲスト、ビジター、メネット)

担当：A班(大野、村野、本川、神崎)

HAPPY BIRTHDAY

該当者なし

受付 本川 悦子
司会 大野 貞次

開会点鐘 篠原 会長
ワイズソング(いざ立て) 一 同
聖書朗読・感謝 村野 絢子
開会あいさつとゲスト紹介 篠原 会長
会食

卓話 「東京YMCAにほんご学院~10周年にむけて」 東京YMCAにほんご学院
業務主任・柳原みずきさん
ベトナムからのにほんご学院生のお二人

ハッピーバースデー
諸報告 会長 他
YMCA 報告 担当主事・木川 拓
ニコニコ 一 同
閉会点鐘 篠原 会長

— 9月第2例会(事務会) —

日時：9月26日(木)

19:00~21:00

会場：ウェルファーム杉並

出席者：大野、神谷、篠原、高嶋、
鳥越、本川、村野、吉田

<確認事項>

9月の記録・ブリテン記載の通り確認した。

<会計報告>

7月、8月、9月、3ヶ月分が報告され、承認された。

<協議事項 =例会関係=>

▼10月例会

卓話者に関し、当初予定された候補者が都合により辞退されたので新たに協議した。

▼11月例会

卓話者は予定通り米長晴信さん(甲府21クラブ)にお願ひする。

▼3月合同例会(恒例東京世田谷クラブとの合同例会)

卓話者との交渉は3月担当者神谷幸男が当たる。

<協議事項 =例会関係以外=>

①2019-2020年度クラブ会計予算原案を一部修正し、承認され

た。

②10月ブリテン編集会議

10月担当大野さん提案を承認した。

③ブリテン発送先の決定

発送先：区役員、あずさ部役員、区事務所、あずさ部クラブ会長、ペンタゴン会長とする。

他の送付先は10月事務会で再度検討する。

④SNS活用の件

クラブメンバーのSNSに対する認識が未だ不十分なので目途が付くまで保留する。

⑤諸集会(他クラブ関係を含む)

参加者を確認した。

(書記・神谷幸男)

<会員消息>

体調不良で小山多喜子さんの例会欠席が続いていたので、9月29日に篠原会長がご自宅を訪問して様子を伺った。とてもお元気で時々散歩を楽しんでいるが、夜の例会出席に不安があるとのこと。10月の例会には是非出席したいとのことでした。

卓話者紹介

柳原 みずき(やなぎはら・みずき)さん

学生時代、父親の仕事でフィリピン、ケニアで過ごし日本の大学を卒業後、2000年に東京YMCA入職。語学教育事業・国際協力部で働き、にほんご学院には2011年設立時から9年目になります。

Kieu Thi Lan Oanh (キユウ テイ ラン ルアン) さんベトナム出身、学生、2018年10月入学。Nguyen Dinh Le Huy (グエン ディン レフィ) さんもベトナム出身の学生で、今回は応援団です。

東京YMCAのHPで、WHOの毎月の予告と報告を写真入りで見ることが出来ます。

<http://tokyo.ymca.or.jp/>

community/suginami_news/





不世出のランナー・人見絹枝を語る田中良子さん

－ 9 月例会報告 －

9 月例会は、鳥越成代さんの紹介で彼女の先輩である田中良子さんに、「人見絹枝と私ー彼女が遺した課題を追って」と題して卓話していただいた。

人見絹枝のアスリートとしての功績に加えて彼女の人間としての信念とその信念に基づく社会的功績について、物静かな口調ではあったが熱っぽく話された。

「人見絹枝」とは言うまでもなく 1928 年（昭和 3 年）第 9 回アムステルダムオリンピック大会 800m 走で、初めてメダル（銀）に輝いたアスリートである。

田中良子さんは人見絹枝を尊敬する 1 人であり彼女の功績（下記）を更に推進させようと活動されている方である。経歴等については著書「不滅のランナー・人見絹枝」に詳しい。（以下卓話での筆者の主観的要旨）

人見絹枝は長身で運動能力に優れていたばかりでなく女性の地位向上に強い思いを抱いていた意志の強い持ち主であった。高等女学校を卒業し上級学校へ進学する際、父は体育学校への進学に反対した。理由は体育学校は頭の悪い者が行くところであるとの一般通念があったので世間体が悪いと。しかし彼女はスポーツは頭が悪くては強くなれないとテニスを通して体得していたので、父の反対を押し切って体育学校に進んだ。

100m 走では世界的記録の保持

者であったので、第 9 回オリンピック大会では 100m 走に期待されていたが、予選落ちとなり落ちこんだが 800m 走に出場し見事に第 2 位となった。限界までやり抜く体力と意志の強さの持ち主であった。

毎日新聞の記者となってスポーツの向上に活躍したが同時に女子の地位向上に力を注いだ。

当時、競技種目が男子のそれと比べて格段に少ないという差別に対して戦い、競技種目を増やすことに成功した。スポーツの記録向上のためには指導者が必要であると、指導者育成に貢献した。

女子の体格向上に努力した（当時は女子の体格が貧弱であった）。（神谷幸男）出席者＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、神崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、＜ビジター＞太田勝人（東京町田スマイリング）、久保田貞視・長谷川あや子（東京八王子）、小原史奈子（東京たんぼぼ）、＜ゲスト＞田中良子（卓話）、＜メネット＞神谷

－ 甲府 21 クラブ 例会 －

9 月 21 日（土）に甲府 21 クラブ恒例のぶどう棚例会がおこなわれました。今年はブドウ園ではなく、勝沼の「ぶどうの丘」のテラスでバーベキューをしました。

勝沼ぶどう郷駅で下車すると、そこには、レトロな「ぶどうの丘」行きのバスが待っていました。バスはぶどうの丘に向かって、ぶど

写真上は、甲府21クラブの入会式の様子
下は、出迎えてくれたレトロなバス

う畑の間を縫いながら走りしました。10 分程で到着して、最初に地下のワインカーブを見学しました。

そこには審査をパスした 200 種類ものワインが貯蔵されていて、有料で試飲ができるのですが、私たちは匂いを嗅いで例会場へ向かいました。

例会では、若い 2 人の入会式が行われました（男性の佐藤さんは新婚さんだそうです）。

会場は火気厳禁のため LED のろうそくが灯されました。

ワイズの式次第に従って無事入会式が終わり甲府 21 クラブは 2 人の仲間が加わりました。

2 部はテラスに移動して、バーベキューを楽しみました。バーベキューのテーブルは 6 人で囲むようになっていて、ビール、ワインを飲み、お肉、野菜をそれぞれ焼いていただきました。

差し入れのシャインマスカットが新鮮でとてもおいしかったです。食べて、飲んで、ぶどう棚例会はお開きになり、またレトロなバスに乗って帰路につきました。（本川悦子）



国立天文台と 大沢の里の水車農家 WHO 9月例会報告

2か月夏休みでしたから、9月28日は久しぶりのウォーキング。嬉しいことに5人の新メンバーの参加があり、総勢37人。

JR 武蔵境駅からバスで、国立天文台へ。関東大震災の翌年、麻布から移転したそうで、広大な敷地は緑に覆われ、構内に入るとひんやりとした空気を感じます。通路に太陽系の星の距離を130億分の1に縮尺した表示板がありました。東京ドームの何個分という譬えなら想像の範囲ですが、これは、凡夫には見当もつかないスケールの大きさです。

最初に入ったのは天文台歴史館。ここには1998年に引退した日本で最大の65cm口径の折望遠鏡があります。幸い、天文台スタッフに分かりやすく解説してもらえました。ドーム型の建物は、観測床が観測を容易にするためエレベーター式に上下したそうです。ガリレオ・ガリレイが製作した望遠鏡の精密模型もありました。ガリレオは人類で初めて星に望遠鏡を向けた人だそうです。

アインシュタイン塔には行けず、展示室、天文機器資料館を巡り、ベンチで1時間の昼食休憩、最後に大正10年に建設されたドームの第1赤道儀室で、再びガイドの説明を受け望遠鏡を動かすことが出来ました。

天文台からは、ハケの急な斜面

を避けて野川に下り、遡上します。やがて、水車経営農家の峰岸家に。1808(文化5)年に創設され、以来改良を重ねたもので高さ4.6m、幅1mという現役の大型水車です。ボランティアガイドによって、約30分の説明をうけました。

対岸の「ほたるの里」の稲の刈り入れが終わり、稲束が架けられている田を抜け、旧箕輪家の古民家が最後の目的地。保存されている古民家主屋は、明治35年に建てられた典型的な四つ割り農家、その後、改修を重ねましたが、三鷹市に寄贈され、昭和25年～50年の佇まいに復元されています。

峰岸家は、この地で初めてワサビの栽培に成功した養蚕農家でした。残念ながらワサビは、ハケの清冽な湧き水が枯れたことから今は庭先のワサビ田に面影をとどめるのみ。現在、再生が試みられています。ここでもガイドの説明を聞くことが出来ました。この日から咲き出したと思われる曼殊沙華。赤は「炎立つ」、白は「高貴な」イメージでした。野川からやや離れて、近藤勇の墓のある龍源寺前バス停から、JR 駅前に向かい、解散しました。

今回から参加者本人に事故が起きた場合に備え、緊急時連絡先を登録することにしました。

ワイズ関係の参加は、石井・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、樋口(東京グリーン)、関(応援)でした。(吉田明弘)

大正十五年に建造された大赤道儀室(歴史館)にある六十五cm口径の屈折式望遠鏡。専門家の解説が聴けた

YMCA Today

■ホテル学校では2学期がスタート。1年生130人は9月2日～来年2月5日までの6カ月間、ホテル実習を開始しました。

学生たちは1都3県のさまざまなホテルにて、1学期に学んだサービスの技術や知識を本物の環境にて実践します。ますますグローバル化が進む中でホテリエとしてはもちろんですが、一社会人として大きく成長して戻ってくることを今から楽しみにしています。

■9月2日～6日、「第20回アジア・太平洋YMCA大会」が日本YMCA同盟東山荘にて開催され、アジア21カ国から約400人が集まりました。

「自然の恵みに抱かれ、平和に向かって共に生きる」のテーマのもと、スティーブン・リーパー氏(元広島平和文化センター理事長)による基調講演、グループワークなどのプログラムが持たれた他、アジア・太平洋YMCA同盟の新役員選挙も行われました。

■9月23日(月・祝)に木場公園にて「第33回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」を開催しました。全50チーム、伴走者も含めて計340人のランナーが完走し、レース前の「こどもラン」には幼児・小学生約500人が参加。来場者総数は1,600人を越え、にぎやかな大会となりました。益金は東京YMCAと全国YMCAが主催する障がいのある子どもたちを支援するプログラムのために用います。

東京西を含む、山手センター関係4クラブが支援したマウンテンハンド・チームは13位でした。

(担当主事・木川 拓)

意見交換

毎月15日に発信

Change! 2022

EMCニュース

ワイズドットコムで配信されます

☆☆☆ インタビュー ☆☆☆
 藤間 孝夫さんに聴く
 熱海グロリークラブ



—藤間さんのお生まれは。

「1931年、熱海市になる前の熱海町で生まれ、育ちました」

—子どもの頃は。

「父は植木屋職、今の造園業でした。熱海は別荘や旅館が多く忙しく働いていました。幼い頃、日曜学校に行った記憶があります」
 —やはり軍国少年でしたか。

「その頃は男の子の夢は、陸軍大将になること。七五三の時の写真もそのような服を着ています」
 —空襲には。

「旧制中学は沼津へ汽車通学でした。終戦前に空襲に遭い、焼け跡での卒業式でした。熱海は、グラマン戦闘機の凄さまじい機銃掃射はありましたが、温泉と静養の町ということで、B29の空爆は免れました。しかし昭和25年の大火で私の家も全焼しました」
 —熱海の変遷を見てこられた。

「そうですね。戦後は若者が外国の文化を求めて教会に流れ、私もその中にいました」

—お仕事は家電販売店ですね。

「父は、1945年に亡くなり、私は在学中のために跡を継ぎませんでした。卒業後、地元の銀行に5年務め、脱サラしました。子どもの頃から電気や機械いじりが好きだったので、専門学校で1年間、個人商店で1年間修行して、地元で電気店を開業しました。

店は、順調でした。近年は大型店攻勢で、厳しい面はありますが、熱海は、高齢者が多いので、人間関係を活かして使用法を教えたり、アフターサービスを強みに、やりがいを感じながら仕事が

できます。今は幸い次男が主力。バトンタッチを検討中です」

—1965年に熱海クラブの設立に参加されました。

「地元から横浜クラブの例会に通っていた、竹内敏朗さんが熱海にクラブをつくろうと、私たちの教会に協力要請にきました。話を聴いて、面白そうだったのが、始まりでした。彼は、39歳、私は32歳でした。とにかくYMCAのことは、だれもほとんどが知らない、『クラブづくり』の説明書もヨコ文字ばかりでまったく理解出来ませんでした。それでも、ロータリークラブやライオンズクラブ、JCは知っていましたから、クラブをつかって、青少年の健全育成を自分たちでやるんだと、チャーターナイトに向かってまっしぐら。1963年12月にチャーターナイトを行いました」

—会員55人、平均年齢36歳。これまでの日本のワイズには類のない強力なクラブで別扱いでしたね。藤間さんは書記長として、ご苦労があったでしょう。

「楽しくもあり、苦しさもありでした。『例会や委員会出席が厳しすぎる』『付き合いきれない』と初年度で19人が退会しました。それでもチャーター6か月後には1965年の日本区大会のホストを引き受けました。熱海市の人口は約4,500人。奉仕クラブはいくつもありますから、中途半端なクラブは存在感がないのです」
 —熱海クラブには、力まかせの印象がありましたが、現在の『ワイズの信条』や、当時の南東部ソングの作詞をつくりました。『信条』は、設立間もないクラブが創り出したにもかかわらず、ワイズの本質について、今も新鮮ですね。

「メンバーは、市の中心部で職住接近の人が多く、職業も多岐にわたりますから、いろいろな情報や発想があるのです。昼や深夜に集まっては話し合い、さまざまな議論をしていました」

—藤間さんは、現在、唯一のチャーターメンバーですから、熱海国際大会、新クラブ設立、富士山部独立などさまざまな輝かしい場面に立ち会われていますが、ここでは誌面が限られていますので、一部だけお話をうかがいます。

「その方が有難いです。素晴らしい仲間とやったことですから」
 —藤間さんは、富士山部が生み出した熱海YMCA初代理事長を務められました。

「私たちは、全員が横浜YMCAに会員登録し、英語教室、夏冬のキャンプなど青少年活動を行い、メンバーが汗を流していました。それでもワイズの会合に出ると「YMCAのないクラブ」と言われることがあり、YMCAをつくろうと研究を始めました。当時は市内に大学はなく、高校は1校で、とても都市型YMCAは難しいということで、会員が運営するYMCAとして、1974年に設立しました。富士山部の全メンバーがYMCA会費を納入し、活動はメンバーによって運営しています」
 —1984年には、熱海グロリークラブをつくられましたね。

「会員数が、瞬間風速で91人となりました。若いクラブ役員がどうしても古いメンバーに遠慮するので、クラブ分割を検討し、50歳以上の有志33人が退会し、新クラブを設立しました」

—クラブを若いメンバーに譲り新クラブへ、格好いいですね。藤間さんはオルガンを弾かれますね。いつから始められましたか。

「姉がやっているので、私は悪戯程度。後でエレクトーン教室に数年通いましたが、やはり自己流ですね。今も教会の日曜礼拝で、月3回奏楽を弾いています」

—ワイズメンズに加わって良かったことは。

「いろいろな機会を通じて多くの遠い人、近くの人と出会い交わり良い体験ができたことですね」
 —有難うございました。(吉田明弘)

旅で出会った人 ⑬

村野 絢子

とうとうハワイに

私には日本が戦争を始めた場所に遊びに行くのは抵抗があった。今回従妹の一人っ子 Ä から「95歳の母をハワイに連れて行くので一緒に行って」と頼まれた。従妹夫婦は仕事でアメリカに滞在していて、やっと日本に戻ってきた。外国旅行をしたいと待っていた叔母(父の妹)は、去年はオーストラリアのゴールドコーストに行ってお満足だったが従妹夫婦は自由に動けず大変だったという。「今度はハワイに行きたいと言っている」というわけで動員されたのだった。

2014年5月4日デルタ航空でホノルル乗り換えマウイのカルファイ空港に到着。レンタカーで向かったキヘイのコンドミニウムは空港から近くとても快適であった。夫婦の楽しみはゴルフなのだが、今回ハワイは初めての叔母と私の為にドライバーとガイドに徹してくれる。最初に行ったのは3,000mの頂上まで車で行けるハレアカラ休火山国立公園は荒涼とした噴火口の中にいくつもの噴火口の小山があり、その広さはマンハッタンがすっぽり入る

ほどだという。映画「2001年宇宙の旅」のロケ地として有名になったのはなるほどと思えるスケールの大きな砂地、ここは確かにアメリカ合衆国。高山植物の銀色の大きな花シルバースウート(現地語でマヒナヒナ)を見られたのも嬉しかった。次のイアオ溪谷、ここは緑深くほっとする場所だが、その昔、カメハメハ大王軍とマウイ軍が激戦を交えた場所だという。叔母曰く「この景色は箱根と変わらないわね」。まいった、まいった。

ちなみに翌2015年も同じハワイのオアフ島に姪2人と坊や、繁も加わり8人と大勢で行った。今回は繁と2人でパールハーバーに行き、太平洋戦争終結日本降伏調印の行われた戦艦ミズーリ記念館と、戦艦アリゾナ号の沈むその上に建てられたアリゾナ記念館をしっかりと見てきた。

主人公の叔母の口癖「私は食べないから」と言いつつしっかり食べる様子を見て、元気な100歳は間違いないと思っていたが、昨年「白寿の祝い」をし、この11月の誕生日に本当に「100歳のお祝い」を計画している。



現憲法を守ろう

神谷 幸男

9月24日付毎日新聞の夕刊に「改憲すれば戦時体制完成」との記事が載っていた。内田博文九州大学名誉教授に記者が取材した記事である。

3か所抜粋要約すると「近年急速に進んだ国の権利を強める一連の法整備は、戦時体制を強めた1928年(昭和3年)とよく似ている」「太平洋戦争直前の1941年の改正治安維持法は『普通の人たち』の『普通の生活』が国の監視や取り締まりの対象となりました」「憲法改正でこの国の戦時体制は完成してしまいます」と。

平和と個人の自由と人権が国家権力によって侵され得るようになる憲法改正(改悪)には断固反対すべきと思う。憲法改正反対を政治問題として捉えるのではなく個人の生活を守る問題であると捉えている。

富士五湖クラブ・東京サンライズクラブ合同富士山例会に参加して

9月28日・29日、富士山5合目の佐藤小屋で例年の通り開かれました。私は車でサンライズの菰淵さんと荻窪駅で待ち合わせ午前9時に出発し集合場所に向かい、皆さんと佐藤小屋へ。約70の方が参加、わがクラブからは本川さんと私2人が参加。

午後3時よりキノコ採り、4時より例会が始まりました。2クラブの会長の挨拶等があり、ハッピーバースデーでは9月生まれの本川さんはじめ7の方がお祝いを受けました。

例会が終わり、懇親会の始まる前に卓話があり午後5時半からパーティーが始まりました。バーベキュー3つの鉄板に肉・野菜・きのこ等々がふんだんに焼かれ皆さんの胃袋に収まってゆきました。飲み物もふんだんにあり、また参加者による挨拶・歌・等の演

芸もあり楽しい時間が過ぎてゆきました。8時ごろ中締めをし、その後火を囲みながら会話が弾みました。私は10時に床に就きました。

翌朝は5時に御来光を見に行く方が6合目に向かって出発されましたが、私は5時半に菰淵さんと一緒に教会に向かいました。

(大野貞次)

編集後記

10月例会の卓話者がなかなか決まらず苦戦をしましたが、素敵な方が来ていただけなので楽しい例会が開催できそうです。お友達を誘って出席ください。

多くの方が寄稿してくださり感謝いたします。

また発刊が遅れました事お詫びいたします。(TO)